

ワークショップ

国際的なチーム医療教育推進拠点の形成にむけた取り組み

群馬大学医学部は、国際的なチーム医療教育推進拠点となるべく活動を始めた。国外に向けたチーム医療教育トレーニングコースの提供とチーム医療教育ワークショップへの協力を進めている。学部生レベルでの国際交流も開始した。これらの活動は、世界保健機関 (WHO) と連携して展開しており、国際的問題である保健人材不足の解決に寄与することが期待されている。本ワーク

ショップでは、これまでの活動を振り返りつつ、チーム医療教育推進拠点に求められる役割、機能について国際貢献の視座から考えてみたい。

渡邊 秀臣

(群馬大院・保・リハビリテーション学)

篠崎 博光

(群馬大院・保・看護学)

群馬大学医学部におけるチーム医療教育

浅川 康吉, 外里富佐江

(群馬大院・保・リハビリテーション学)

保健学科は全専攻3年生の必修科目として「チームワーク実習」を開講している。この取り組みは平成19年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択され、「多専攻学生による模擬体験型チーム医療実習」が推進されてきた。平成20年度からは医学科学生の参加が始まり保健学科の「チームワーク実習」から医学部の「チームワーク実習」とへと発展した。内容は、新たにシナリオ症例によるチーム医療模擬体験型学習が導入され、さらに臨地実習施設とのネットワークを構築、学生がチームワーク実習をより充実して体験できるようになった。その後、平成22年度文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業(テーマA)大学教育推進プログラム(学士力GP)」にも採択され、「総合的学士力の育成に向けたチーム医療実習」を進めることとなった。現在は「チームワーク実習」の授業にWHO関係者による招聘講演を取り入れ、一部の学生ではあるが学生組織が海外で学習内容を発表する機会を設けるなどして、国際的な医療、保健人材育成にまで視野を広げて教育内容の改善に努めている。

今日、チーム医療は世界的潮流である。チーム医療は Interprofessional Work (IPW)、チーム医療教育は Interprofessional Education (IPE) という用語が用いられるようになってきている。「チームワーク実習」は平成8年の保健学科開設に際して設けられた授業であり、日本の大学教育レベルでは最も伝統をもつ IPE のひとつである。本ワークショップでは群馬大学医学部における「チームワーク実習」の現在をこれまでの歴史を踏まえて紹介する。

世界保健機構 (WHO) との共同活動について

李 範爽

(群馬大院・保・リハビリテーション学)

WHO は2010年に「Framework for Action on Inter-professional Education and Collaborative Practice」を発表、改めて保健医療人材育成におけるチーム医療教育の重要性を強調した。

群馬大学など医学教育に従事している10大学によって設立された日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク (JIPWEN) は2008年12月にWHO本部の Department of Human Resources for Health (保健人材部) を訪問、以降チーム医療教育の普及のために以下の共同活動を行ってきた。① JIPWEN 主催のシンポジウムにWHO職員を招聘し、世界レベルでの保健医療の現状と課題を共有する、②英語で学術論文や書籍を発表し、チーム医療の啓蒙に努める、③ JIPWEN 大学教員にWHO研修の機会を提供し、世界レベルで活躍できる人材を育成する。その後 JIPWEN は2010年にWHO西太平洋地域事務所 (WHO WPRO) を訪問し、上記活動を継続することを確認し、またアジア地域におけるチーム医療の普及のための新たな行動計画を策定した。具体的には、①毎年日本で開発途上国の保健医療人材を対象にしたチーム医療トレーニングコース開催をする、②開発途上国に出向き、チーム医療ワークショップを開始する、が共同活動に追加された。

本演題では、上述した群馬大学とWHOとの今日までの共同活動、そして今後の活動計画について紹介する。